

理解や表現力問う

公立高一 一般選抜 時事問題交える

府内の公立高校で12日に行われた2018年度入試の一般選抜は、開業30年を迎える瀬戸大橋を題材にするなど、時事問題を交えながら理解力や思考力、表現力を問う内容だった。5教科のうち国数英はA(基礎)、B(標準)、C(発展)の3種類の問題があり、各校ごとに選んだ。理社は共通。合格発表は20日に各校である。関西を中心に展開する進学塾「第一ゼミナール」に、主に難関校が採用したC問題を中心に各教科の出題傾向を聞いた。

国語

例年出題されていた古文が漢文に替わり、書き下し文をもとに文脈を問う出題があった。現代文は記述問題が減ったものの、1題ごとの文字数が増えた。漢字書き取りは減り、文法や語句の使い方が新たに加わった。作文は資料やデータを使って自分の考えを論理的に述べる力が求められた。

英語

難易度は昨年度並み。文章の意味が通るよう正しく並べる整序問題が出された。英文は平易だが量が多く、スピードが必要。英作文は自分の意見や理由を示しながら記述する問題だった。リスニングは、英文を読んでから対話を聞いて主張を要約

数学

問題の構成は例年通り。合格者平均点が3割に満たなかった昨年よりは取り組みやすく、時間的にも余裕があっ

たと思われる。大問2は平面図形、大問3は空間図形。記述問題は2題で、関数、証明の分野だった。整数、資料を活用する問題では、条件を整理し考察する力が問われた。

理科

大問は4題で例年通りだが、全体

の設問数は減った。題材は金属の組み合わせによる「化学電池」の電圧の違い、ホウセンカの花のつくり、大阪とインド・デリーの気温と湿度の比較など。実験結果や観察記録を読み取る、科学的・論理的な思考力が問われた。

社会

歴史分野の出題がやや多かった。

基本的な知識や人物名を問うだけでなく、地名から場所を特定したり、年代を並べ替えたりする問題があった。瀬戸大橋など交通網や通信網の発達、国際関係など、大問ごとにテーマがあり、資料を活用する力や判断力が試された。

A問題

国語の作文は、ことわざを取り上げ、その例を具体的に述べる問題。数学の構成や難易度は昨年度並みで、各単元の理解度を幅広く確認する内容だった。英語は、基本的な語彙や文法のほか、英作文では条件に従って正確に書けるか問う出題もあった。

B問題

国語の作文は「インターネットの普及による影響」がテーマで、考えを論理的に述べる力が必要。数学は大問2が「ダイヤグラム」から「規則性に関する問題」になり、大問3、4も含めて全体的に易化した。英語はリスニングとも難易度は昨年度並みで、英文も標準的だった。